

カンボジア

主要データ

国名〔英名〕	カンボジア王国〔Kingdom of Cambodia〕
面積(km ²)	181,035
海岸線延長(km)	443
人口(百万人)	17.3
人口密度(人/km ²)	95.6
GDP (bUS\$)	70.08
一人当り GDP(US\$)	4,050.87
主要鉱産物：鉱石	なし
主要鉱産物：地金	なし
鉱業管轄官庁	鉱業エネルギー省 鉱物資源総局 (Ministry of Mines and Energy, General Department of Mineral Resources)
鉱業関連政府機関	カンボジア開発評議会(CDC)
鉱業法等	<p>鉱物資源の管理及び利用に関する法律 (Law on Mineral Resource Management and Exploitation, 2001年)</p> <p>→ (2018年一部改正)、</p> <p>鉱物資源探査許可及び産業鉱業許可の管理に係る省令規則 (Sub Decree on Management of Mineral Exploration and Industrial Mining Licenses, 2016年)、</p> <p>鉱物資源に係る国家政策 2018-2028 (National Policy on Mineral Resources 2018-2028, 2018年)</p>
ロイヤルティ	金属及び非金属鉱物のロイヤルティに関する共同政令
外資法	投資法(1994年制定、2003年改正)：鉱業にかかる外資規制なし
環境規制法 (環境影響調査制度、環境・排出基準の有無等)	<p>環境保護と自然資源管理に関する法律, 1996年</p> <p>環境影響調査プロセスに関する政令, 1999年</p> <p>水質汚濁の管理に関する政令, 1999年</p> <p>固形廃棄物の管理に関する政令, 1999年</p> <p>大気汚染と騒音の管理に関する政令, 2000年</p> <p>森林法, 2002年、自然保護地域に関する法律, 2008年</p>
鉱業公社	非鉄金属に関する鉱業公社はない
鉱業活動中の民間企業	Angkor Gold(加)、Emerald Resources(豪)、Mekong Minerals(豪)、Mesco Gold(インド)等 (民間団体：カンボジア鉱業探鉱会社協会(CAMEC))

1. 鉱業一般のトピックス

カンボジアは、ボーキサイト、鉄、マンガン、金、銅等の鉱物資源ポテンシャルは有しているものの、長らく続いた内戦や政治的な混乱もあり、統計に現れる程の生産活動はほとんど無い。そのような状況の中、2021年6月より Okvau 地区の金鉱山の生産が開始された。他方、鉱業活動については比較的自由に認められていることもあり、外資を含む多くの会社が金を中心に探鉱活動を行っている。

鉱業・エネルギー省によると、2020年に鉱業事業者から得たロイヤルティ収入は、前年比5%増の21mUS\$だった。鉱業・エネルギー省鉱業局の Yos Monirath 局長によれば、ロイヤルティ収入は比較的

小幅な増加にとどまったが、鉱業事業者はいずれも、積極的に活動を続けている。同省は2021年5月時点で、100以上の鉱業事業者、40の探査事業に営業許可を発行している。

2. 鉱業政策のトピックス

政府は2018年5月、「鉱物資源に係る国家政策 2018-2028」を制定した。本政策のビジョンは、「資源管理及び環境への責任を考慮した経済的・社会的利益のための鉱物資源開発」である。国家としての本政策の目標は、①持続可能な鉱物資源の開発・管理、②人々と地域社会への利益の創出、③インフラ開発及び建設事業への原料の供給、④国家歳入のための新しい財源の創出の4点である。

この目標を達成するために、①鉱物資源の管理・開発における公的機関の関与の強化、②持続可能で責任ある鉱業事業の促進、③鉱物資源及び地域コミュニティの発展、④零細・小規模の鉱業事業の発展、⑤鉱物資源の輸出の促進の5点の目的が設定されている。そして、これら目的をそれぞれブレイクダウンした各分野について、アクションプランが設定されている。

その中では、目的①のアクションプランの1つである「投資のプロモーション」や、同じく目的⑤の「高付加価値の鉱物製品の輸出」が注目される。

「投資のプロモーション」においては、信頼される投資機会を創出し、国内・外国の区別なく投資を促進し鉱物資源の開発に資することとしており、投資家へのデータ提供の整備、探鉱から採掘へのライセンスの一貫性の保障、安定的な収益を維持できるような税制等の制定等を盛り込んでいる。また、「高付加価値の鉱物製品の輸出」においては、輸出前の鉱物から中間製品等への加工の奨励、戦略的な鉱物製品輸出のための需要予測・価格の定期的な分析、生産性改善への研究開発等を盛り込んでいる。また、鉱業活動への投資として、インフラ建設材料としての碎石・砂利・砂・ラテライト、国内工場へ供給する石灰岩、そして鉄、金鉱石、石炭、シリカの採掘に注力することも規定している。

3. その他トピックス

(1) カンボジア：Kampong Speu州の鉱物探査に関する覚書を締結

2021年6月、シンガポールのHong Lai Huat Groupの完全子会社HLH Agriculture社とCambodia Hei Shi Mineral社は、カンボジアKampong Speu州にある鉱物資源の探査と採掘のため、推定投資額20mUS\$の覚書を締結した。法的拘束力のある契約を締結するため、今後3か月間で両者が取るべき一連のステップを示したが、2021年11月15日時点で続報はない。覚書では、HLH Agriculture社が土地の提供と採掘権の割り当てを担当するJVを設立し、Cambodia Hei Shi Mineral社がこれまでの採掘実績を活かし採掘作業を行うとともに、両者間で合意された運営予算の範囲内で、十分なスキルを持った労働者や人材の雇用、機械や技術サポート、採掘作業のためのインフラ整備などにかかる全ての費用を負担する。

(2) カンボジアで初の金の商業生産開始

Mondulkiri州南西部Keo SeimaのOkvau地区で、2021年6月21日から金の商業採掘が開始された。カンボジアで初めて操業する近代的な大規模鉱山である。豪州鉱山会社のRenaissance Minerals社が14年間にわたる探査・研究を経て実現したもので、国際基準に準拠した90%の金を含む金の半製品を製造することでOkvau金プロジェクトを商業化、マインライフは8年で、平均3t/年の金が生産される。同プロジェクトでは、2021年9月23日までに、522kgの金（ドーレ）を生産した。

(3) 加Angkor Resources社、少数民族と共同契約

2021年5月、加Angkor Resources社（旧Angkor Gold社）は、Ratanakkiri州のJarai少数民族コミュニティと、Andong Measプロジェクトのライセンスに関する「画期的な」共同契約を締結した。Angkor社によれば、協定は地域社会、産業界、政府、市民社会が、先住民族に利益をもたらす現実的

なモデルを実施するための道を開き、国の倫理的な発展を促進するものであり、この種の合意はカンボジアで初めてのものである。

(4) カンボジア政府、銅探鉱を原則的承認

2020年3月、鉱山エネルギー省は、2つの企業がカンボジア王国内で銅探査を行うための初期承認を得たと発表した。鉱物資源総局のYos Mony Rath局長によると、HT Kuang Ye Cambodia Development社とCambodia K88 Industry社の申請が初期承認を得た。その後、マスタープランと環境影響評価(EIA)が認められれば、ライセンスの発行となる。

HT Kuang Ye社、Stung Treng州Thala Barivat地区にある82.25 km²の2つのブロックで銅を探鉱する。Cambodia K88 Industry社は、Kratie県のSambor地区とKampong ThomのSandán地区で93.94 km²を探査する。

(2021.11.16 ジャカルタ事務所 白鳥智裕)